

憧れのあの人の言葉を聴きたい!

世界の英語で 耳トレ *Part 2*

[アイルランド・スコットランド・欧州編]

ハリウッド俳優のインタビューを聴きながらリスニング力をアップさせる夏の集中特訓、「世界の英語で耳トレ」シリーズ第2弾をお届けいたします。今月号ではアイルランド、スコットランド、ヨーロッパの国々で話される英語の特徴を学びましょう。さらに、一歩先を目指す方のための上級リスニングトレーニング法もご紹介。アメリカ英語やイギリス英語だけじゃない、「世界の英語」にチャレンジしてみませんか?

監修：里井久輝(龍谷大学教授)

d13@Shutterstock.com (p.53) / G-Stock Studio@Shutterstock.com (pp.54-55) / Singleline@Shutterstock.com (p.55) / ruskpp@Shutterstock.com (p.56) / Puwadol Jaturawutthichai@Shutterstock.com (p.56, p.60) / Borka Kiss@Shutterstock.com / Neirfy@Shutterstock.com / TTstudio@Shutterstock.com (p.60) / 画像・音声 Getty Images (pp.57-59, pp.61-62)

リスニングの基本をおさらい

8月号の「耳トレ」Part 1では、基本とされる英語の音声変化を押さえました。この音声変化に慣れていないと、ナチュラルなスピードで話される英語を聞き取れるようにはなりません。ここでもう一度、基本の「き」である4つのポイントを復習しましょう。またリスニング力アップの効果的なトレーニング法として、前回の「音読」、「ディクテーション」、「シャドーイング」に加え、さらなるパワーアップを目指して今回は同時通訳の基本技術としても用いられているおすすめトレーニング法をご紹介します。

1 強勢と弱化 stress and reduction

- 英語の単語や文は、母音をはっきりとわかりやすく発音される強勢音節と、リズムを整えるために母音が短く、速く、あいまいに発音される弱音節から成っています。これらが英語らしさとなるリズムを作ります。強勢音節は聞き取りやすく、それに比べて、弱音節は聞き取りが難しいと言えます。
- 英語では一般的に、意味内容を具体的に示す内容語（名詞、形容詞、一般動詞、疑問詞など）の強勢音節がはっきりと強調されます。
- リスニングでは、強勢音節の聞き取りと内容語の把握に気を付けましょう。

It's 'hard for me to 'say I'm 'sorry.

「'」は強勢記号：直後の音節が強勢音節

2 連結 linking

- ナチュラルスピードの英語は1語ずつ区切って発音されず、自然につながるところではつなげて発音されます。一般に「語末の子音+語頭の母音」の音が連結して発音されます。

talkabout all I want

- アメリカ発音では、連結時に/t/の前後が母音で挟まれると、/t/が/r/（一度舌を弾いて発音される音）に変化し、「ラ行」や「ダ行」に聞こえます。

about it a lot of

3 脱落 elision

- 英語では、連続する子音の調音位置（その音が発音される場所）が同じか、または近い場合に特に脱落が生じやすく、前の方の子音が脱落して音が消えます。

next day (/t/が脱落)

grandmother (/d/が脱落)

- 音の脱落で聞き取りが難しいのは、弱音節（あいまいに発音される部分）です。通常、弱形で発音される機能語（助動詞、be動詞、前置詞、接続詞、冠詞など）は脱落が頻繁に起こり、連結も同時に生じることが多いので注意しましょう。

should have been [should've been]

→ /ʃədəv bi:n/（弱形と脱落の複合）

tell her /tel hə:r/ → /tel ər/

（強形/hə:r/は弱形/ər/になり/h/が脱落、
/l/と/ər/が連結）

4 同化 assimilation

- 同化は隣り合う子音がどちらかの影響を受けて、同じような音に変化する現象です。
- 1単語の中でも、単語と単語の間でも生じます。

have to /'hævtə/ → /'hæftə/

Nice to meet you. /'mi:tju:/ → /'mi:tʃu:/

もう一步先の“最強”のリスニングトレーニング法

※本特集では国際発音記号のIPA (International Phonetic Alphabet)を使用しますが、これは正確な発音の理解と習得に非常に役立つツールです。

「リテンション」と「リプロダクション」

リテンションとは、スクリプトを見ずに聴いた英文の内容をしっかり理解して、それを頭の中に一定期間保持 (retain) することです。聴く英文が長くなるほど、難易度が高くなるため集中力が必要です。初めは1〜2文程度の短めの英文からトライして記憶できるようになることを目指しましょう。

リプロダクションは、ある程度まとまった英文をできるかぎり正

確に口頭で再現 (reproduce) していく方法です。このときメモなどは一切とらず、保持した記憶をたどって再現していきます。

より一般的なトレーニング方法のシャドーイングは聴いた英語を「瞬時」に影のように追いかけて口に出していく方法ですが、リプロダクションはリテンションを前提にした通訳者養成の訓練として行われるものでもあるため、難易度がとても高いトレーニングとなります。

練習方法

STEP 1

自分が聞き取れる速さで録音された音声とスクリプトを用意する

STEP 2

最初は1〜2文程度の音声を聴き、音声を一度止めて、聞き取った英文を声に出して繰り返す

*メモは取らずに、頭の中のインプットだけを頼りに再現を試みましょう
自分の声を録音するとさらに効果的です

STEP 3

短い長さの英文が完全に再現できるようになったら、少しずつ聞き取る分量を増やしていく



これらのステップを繰り返すことで、記憶力が確実に強化されます。また、普段なんとなくリスニングしている人も、より丁寧に集中してリスニングをする習慣が身に付くでしょう。さらには、聴いた英文を再現しようとするためには内容の大意を把握することが欠かせませんので、このトレーニングを継続すれば、リスニング中に話の論旨を素早くつかむことができるようになります。決してたやすい練習方法ではありませんが、日々の積み重ねを大切に一步步取り組んでみてください。

「標準語」だけじゃない英語の世界

今月号ではアイルランド、スコットランド、ヨーロッパの国で話される英語をご紹介します。アメリカやイギリスの標準的な英語を学んできた英語学習者は、その他の英語圏や世界中で話されている英語を耳にして、聞き取りが難しいと感じることも多いのではないのでしょうか。

各国の英語にはそれぞれにその母語由来の特徴があります。先月号ではニュージーランドやオーストラリア英語について概観しましたが、今月号は英語圏としてアイルランド・スコットランドの英語を、非英語圏からはフランス・スペインで話される英語の特徴を見ていきましょう。

アイルランド英語



*ここでの「アイルランド」は、北アイルランドも含みます

アイルランド英語は、首都ダブリンを含む南アイルランドと、イギリスを構成する地域を含む北アイルランドの、南北2つのアクセントに大別することができます。北アイルランドはスコットランドからの移民が多かったため、スコットランド英語と共通する特徴が多く見られます。

いわゆるアイルランドなまりのアクセントなどと言われるように、アイルランド英語は私たちが普段聞く英語とはずいぶん違う印象を受けるかもしれません。これは母音の音質の違いによるところが大きく、一般に次のような母音の特徴が挙げられます。

● that の /æ/ → /a/

● but の /ʌ/ → /ʊ/

● /ʊ/ と /u:/ の区別は失われて、foot の母音 /ʊ/ も food の母音 /u:/ も同じように発音されます。cat の母音 /æ/ と cart の母音 /a:/ との区別もなく、同様に発音されます。また、北アイルランドでは一般に長さによる母音の区別はありません。

● 二重母音も、たとえば /eɪ/ → /e/, /oʊ/ → /o/ のように短母音化する、near, square, cure などは二重母音 /ɪə/ /eə/ /uə/ が /i:/ /e:/ /u:/ になる、price の /aɪ/ と choice の /ɔɪ/ とが明確に区別されずに同じように発音されるなど、多くの特徴があり、通常聞かれる二重母音の発音と異なるどころがたくさんあります。子音では、think, that などの th の発音 /θ/ /ð/ は /t/ /d/ になります。

語末 (car) や子音の前 (work) では r の音色 (rhotic sound) が発音されます。イギリス英語ではこの r の音色は聞かれませんが、milk, fill に見られる「暗い」/ɪ/ は全て「明るい」/i/ で発音され、/r/ は舌をそらせて発音されます。

スコットランド英語



スコットランド英語は、イギリス英語とは異なる多くの特徴があります。中でも、特にグラスゴウの英語アクセントは異色なものとして有名ですが、ここでは標準的なスコットランド英語について、その特徴を見てみましょう。

スコットランド英語の最も顕著な特徴として挙げられるのは、r の音色 (rhotic sound) と声門閉鎖音 (glottal stop) です。

① r の音色

アイルランド英語と同様に、スコットランド英語は、語末 (car) や子音の前 (work) などの r のつづりのあるところで r の音色 (rhotic sound) が聞かれます。

② 声門閉鎖音

語中や語尾の t にも注目しましょう。イギリス英語でも近年特に増えてきている /t/ の脱落に類する音声現象として、but, better など、語末や音節末の /t/ が飲み込まれるようにして音

が消えるものがあります。その際、小さく咳をする要領で声帯のすきま (声門) を閉じるため、声門閉鎖音と呼ばれます。実際には声門を閉じるだけで、/t/ は無音となって音が消えます。つまり、but は「バツ」、better は「ベツァ」のようになります。Britain, Scotland など多くの /t/ の発音箇所、t の音が飲み込まれたように消えていますので確認してみてください。

③ スコットランド英語には「ネス湖」などの湖を表す loch 「ロホ」で喉の奥から息を出す /x/ という発音が残っています。他にも、短母音の /æ/ が /a/ になったり、foot の母音が /ʊ/ ではなく food の母音と同じ音質で発音されます。子音では what などの語頭の wh のつづりで、/hw/ の発音も特徴的です。

[アイルランド英語]

Saoirse Ronan

サーシャ・ローナン

thatの/ð/は/d/になり、haveや指示代名詞のthatの母音/æ/がより口の開きの大きい/a/と発音され、butやyoungの/ʌ/がより口の開きの小さい後舌の/ʊ/や/o/のように聞こえ、quiteの/i/がはっきりと発音されているところにアイルランド英語らしさを聞くことができます。

③1 映画『レディ・バード』インタビュー

Even though she's still a teenager, Lady Bird seems so sure of who she is.

Was your sense of self that strong when you were growing up?

Has it reached that level of assuredness now?

まだ10代にもかかわらず、(主人公の)レディ・バードは自分をとてもよくわかっているように見えます。

あなたが子どもだった頃には、そのくらいの強い自己意識があったのでしょうか。

現在はそのレベルの芯の強さに到達していると思いますか。

I think it's always changin'. I have always definitely felt like I know who I am. But I think allowin' that to change has been OK. One of the things that I'm tryin' not to do as much is go, "Oh, I'm this kind of person" or "I'm that kind of person," 'cause I think that can kind of pigeon-hole you a little bit. But I have always been quite [like that]—just 'cause it...it...in a way, you have to be when you're workin' when you're young, you know. And I have a mam who's like that as well, where she's like, "I know who I am, I know what I think" and...and all that, and so I think I grew up with that, definitely.

それは、常に変わるものだと思います。私は昔から自分がどんな人間かわかっていたように確かに感じています。でもその確信が変化することを許してきたこともよかったと思います。私になるべくしないようにしていることの1つは、こんなふうに思うことです、「ああ、私はこんなタイプの人なんだ」とか「私はあんなタイプの人だ」って。だって、それはある意味で少し自分を型にはめてしまう場合もあると思うから。だけど、私はずっと結構[そんな感じでした]——だって、それはある意味ではそうしなければいけないから、若いときに仕事をしているときにはね。それに私にはそんな感じの母もいて、彼女は「自分のことをわかってる、自分の考えをちゃんと持ってる」とか言うんです。だから間違いなく、私はそういう環境で育ったと思います。

Lady Bird: ▶ここでは映画『レディ・バード』に登場する主人公のニックネームを指す。/ **seem:** ~のように思える / **(be) sure of:** ~について確信を持っている、自信がある / **sense of self:** 自己感覚、自我、自意識 / **grow up:** 育つ、大人になる / **reach:** ~に及ぶ、達する / **assuredness:** 自信 / **definitely:** 確かに、間違いなく / **allow...to do:** ...が~することを許す、認める / **as much:** 《否定文で》それほど / **go:** 《話》~と言う、思う / **kind of:** ① (...という) タイプの ②ある程度、ある意味で / **pigeonhole:** (人や物を) 型にはめる / **quite:** 相当、かなり / **in a way:** ある意味で / **mam:** = mother 母親 / **as well:** ~もまた、その上 / **and all that:** ~とか、などなど

[スコットランド英語]

Ewan McGregor

ユアン・マクレガー

footとthroughの母音はそれぞれ短母音と長母音ですが、どちらも同様に/u:/になっており、またgrabやbadlyの/e/がより口の開きの大きい/a/になり、warfare、borderなどrのつづりのあるところで/r/の音色が聞かれるところにスコットランド英語らしさが出ています。



③② ユニセフ親善大使として難民キャンプを訪問した際のインタビュー

In your work as a UNICEF ambassador, you recently visited refugee camps in northern Iraq. How does that kind of experience make you feel about the children in such circumstances?

ユニセフ親善大使としての仕事で、最近、北イラクにある難民キャンプを訪れていらっしゃいましたね。そういった経験で、そのような状況に置かれている子どもたちにどんな思いを抱くようになりましたか。

They could be our children. It could be us, you know. Can you imagine being a family and because of violence in your town you have to just flee, you have to grab your children and run with nothing and...and make your way by foot or through violence, through warfare, to a border and try and get over a border, try and get to safety to survive? We're human beings, and we should look out for each other. The subject of refugees and migrants is very politicized at the moment, and badly so, and we've got to get rid of those terms and remember that children are just children. They're not "refugees"; they're not "migrants"; they're kids. And they deserve our care and our attention.

彼ら(難民になった人たち)は僕らの子どもだったかもしれない。私たちだったかもしれない、ですよね。そんな一家になることを想像できますか。街中での暴力のためにとにかく逃げなくてはいけない、自分の子どもたちをつかんで、何も持たずに走るんです。自分の足で移動して、暴力や戦闘をくり抜けて、国境へ向かい、それを越えようとし、安全な場所にたどり着いて、生き延びようとするのを。私たちは(みんな)人間です、だからお互いに助け合うべきなんです。難民と移民というテーマは、現在、非常に政治問題化しています、ひどいことに。そこで私たちはそういった(議論を連想させるような)言葉を捨て、その子どもたちは、子どもたちにすぎないということを思い出さなければならないのです。彼らは「難民」でもなく「移民」でもない。彼らは子どもです。だから、彼らは私たちのケアや配慮を受けて当然なんです。

UNICEF: = the United Nations International Children's Emergency Fund ユニセフ、国連児童基金 / ambassador: 大使 / refugee: 難民 / circumstances: 境遇、状況 / flee: (危険などを避けて) 逃げる / grab: ~をさっとつかむ / make one's way to: ~に向かって進んでいく / by foot: 徒歩で、歩いて / through: ~を切り抜けて / warfare: 戦争、戦争状態 / get over: なんとか~を越える / safety: 安全な場所・状態 / look out for: ~を気に掛ける、~の世話をする / migrant: 移民、移住者 / politicized: 政治化された、政治色が強い / at the moment: 今現在 / badly: 不当に、不正に、ひどく / have got to do: = have to do ~しなければならない / get rid of: ~を取り除く、なくす / term: 言葉、言い方 / deserve: (援助などを) 受けるに値する / attention: 関心、配慮

[スコットランド英語]

James McAvoy

ジェームズ・マカヴォイ

brave が/e/になったり、but の/t/が飲み込まれるようにして音が消えたり(無音ですが声門閉鎖音と呼びます)するところにスコットランド英語の特徴が見られます。

後者は語中や語末の/p//t//k/で生じ、ほかにもfact、that、Britain、Scottish、not、bit、punters、like、shopなど多くの箇所を確認できます。

③③ 映画『トレインスポッティング』の印象を語る

Do you remember the first time you saw *Trainspotting*, which many people consider a landmark British film?

多くの人がイギリス映画の代表作だと考えている

『トレインスポッティング』を初めて見たときのことを覚えていますか。

Yeah, I think it's a...it's a unique film in its...its own right, not just within British film but within world cinema. It's so unlike anything. And the fact that somebody produced that in Britain, in Scotland, with a Scottish cast and all that and from Scottish source material, was a massive thing for us, you know, for me, certainly within the artistic community, but I think...I think even common punters loved it and continue to love it. And it has become an important film, I think, in the history of film. And that's simply because Danny is brave and bold and...and he knows how to tell stories—he really knows how to tell stories—but not in the same old way; in a challenging way. So, yeah, I remember the first time I watched it, and I remember my grandparents kind of bein' a bit like, “What? Why did we get you this from the video shop? Why did you want to see this? It's just loads of swearin'”—which was rich, 'cause my house was full of swearin'.

そうですね、唯一無二の映画だと思います、その作品自体が。イギリス映画界だけではなく、世界の映画界においてもです。どんな映画とも全く違う。この映画をイギリス、しかもスコットランド国内で、スコットランド人のキャストなどを使って、スコットランドの原作から制作したという事実はわれわれ(スコットランド人)にとって、私にとって、もちろん芸能界にとっては画期的な出来事でした。しかも、一般の映画ファンだってその作品を気に入ったし、今も愛し続けているのではないかと思います。またこの映画は思うに、映画史において重要なものになっています。それは単に、ダニー(・ボイル監督)が勇敢で大胆であり、そして、物語の伝え方をよく知っているからです。彼は本当に物語の紡ぎ方が上手なんです。ですが、従来通りの古いやり方ではない。深く考えさせるやり方なんです。だから、そう、初めてその映画を見たときのことを覚えています。そのときの祖父母が「何これ? 何でビデオショップからこんなものを借りてやったんだ? 何でこの映画を見ようと思ったんだ? 汚い言葉だらけじゃないか」みたいに言ったことを覚えています。どの口が言うんだっていう話でしたよ、なぜなら、うちは汚い言葉だらけだったものですから。

landmark: 画期的な / unique: 類のない / in its own right: それ自体で / source material: 原作 / massive: 非常に大きな / certainly: 確かに、間違いなく / the artistic community: 芸術界 / punter: 《英・話》一般の客、観客 / Danny: ▶本作監督の Danny Boyle を指す。 / bold: 大胆な、冒険的な / challenging: 能力や理解力を試すような / be like: 《話》～とか言う / get A B: A (人) のために B を買う、手に入れる / loads of: たくさんの / swearing: 汚い言葉を言うこと / rich: 《話》批判などが皮肉めいていてばかげた

ヨーロッパで話されている英語

英語を話すのはイギリス、アメリカ、オーストラリアといった英語圏の人々だけではありません。英語が母語でない英語話者の人口はネイティブの約2倍いるとされています。当然ながらその分、さまざまなアクセントの英語があり、世界中の人々がお互いにコミュニケーションをとるためには、いろんな英語になじむ努力が必要です。今回は俳優ジャン・レノとペネロペ・クルスのインタビュー音声を通して、フランス語とスペイン語アクセントの英語の聞き取りに挑戦してみましょう。

フランス語 アクセントの英語

英語の発音を習得する際には、一般に母語の音韻の特徴の影響を受けます。フランス語も、例えばh音の脱落(h-dropping)、句末アクセント、語末で発音しない子音が多いなど、母語としてのフランス語の音声現象が、フランス人学習者・フランス語母語話者の英語に影響することが考えられます。

また、言語から受ける印象は、その言語のもつリズムによるところが大きいと言われますが、フランス語のリズムは、日本語のように一つ一つの音をはっきりと発音し、各音節の長さを同等に保とうとする傾向を持っています(音節拍リズムと呼ばれます)。このリズムも、フランス語アクセントの英語の特徴と言えます。



スペイン語 アクセントの英語

フランス語と同じく、スペイン語も音節拍リズムの仲間です。基本的に音節ごとに同じ長さではっきりと発音されます。実は日本語のリズムも同様です。またスペイン語は、日本語と同じ5つの母音を持っていますので、日本人にとってスペイン語母語話者の英語は比較的聞き取りやすいと言えます。

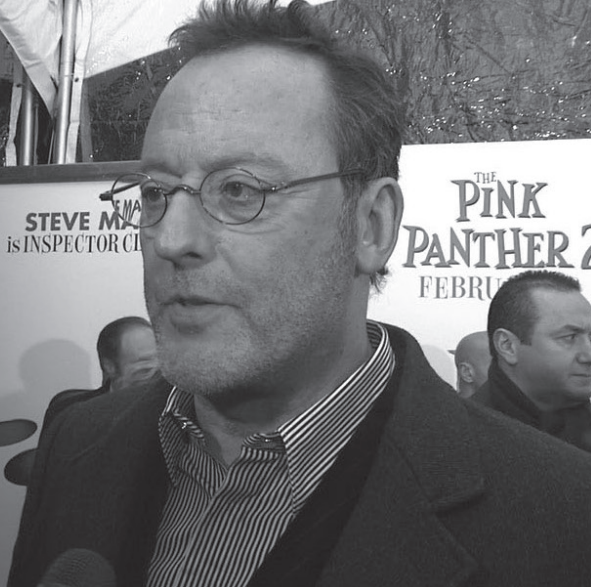
スペイン語は、つづりと発音の関係が単純で、ペネロペ・クルスも本来フランス語である genres をつづりのまま発音していて、generous のように聞こえていますね。スペイン語母語話者は英語の母音 /ɑː//æ//ʌ/ を混同しがちです。また子音の /z/ はスペイン語には存在しませんので、語末の /z/ は /s/ で代用されることが多く見られます。



Jean Reno

ジャン・レノ

not、stop、block、castなどの母音からはイギリス英語の特徴が多く見られますが、knowやfollowの/Oʊ/が/o:/、doneが/o/のように発音されているところや、「and people that I 'know; I've been working with 'them」に見られる句末のアクセントからはフランス語の影響が感じられます。



③④ 映画『ピンク・パンサー2』インタビュー

What do you like about the character you play in these Pink Panther films?

このピンク・パンサーの映画シリーズであなたが演じる人物のどんなところが気に入っていますか。

In fact, what I like is to be with people that—they are my friends, more than why I like the...the character. I like the ambience, I like the group of people making the movie, more than what I'm doing, you know. And...and people that I know; I've been working with them—like Alfred Mo...Molina. I did *The Da Vinci Code* with him, so it's very nice to...to work with people so talented. The comedy part is done by Steve, because Steve is the real comedian. And then you adjust yourself, and you try not to stop or to block. You follow, and you try to serve what I call the “dance,” because we “dance” together.

実は、私が好きなのは（現場の）人々と一緒にいることです——つまり、私の友人たちです。その（演じる）キャラクターが好きな理由よりもね。その空気が好きなんです。その映画製作チームが好きなんです、私自身がやっていることよりも。それから私の知っている人々も。以前から彼らと仕事をしています。例えば、アルフレッド・モリーナです。彼とは『ダ・ヴィンチ・コード』で共演しました。だから、とても素晴らしいんですよ、そのようなすぐ才能のある人々と一緒に仕事をするのは。コメディの部分はスティーブ（・マーティン）が演じます。彼が、（このキャストの中で）本物のコメディアンだから。こちらは自分を（それに）合わせていくんですよ、（彼のコメディを）止めたり、じゃましたりしないように。ついて行くんです。私が言うところの「ダンス」に応じようとすればいいんです。なぜなら、私たちは一緒に「ダンス」しているんですから。

What's the biggest difference between *The Pink Panther 2* and the first Pink Panther film you did?

あなたが出演なさったピンク・パンサーの第一作目と『ピンク・パンサー2』の最も大きな違いは何でしょうか。

I cannot tell [you] about the story, because you will discover some secrets in...in it. The cast, maybe; [the] diversity of the cast.

この作品のストーリーについてはお話しできません、作品の中の秘密（の見どころ）がばれてしまうから。（前作と異なる点は）キャストですね、おそらく。キャストの多様性です。

character: 役、登場人物／**play:** （役を）演じる／**ambience:** 雰囲気、環境／**Alfred Molina:** ▶英国ロンドン出身の俳優。／**talented:** 才能のある／**Steve:** ▶Steve Martin. 米国出身のコメディアン・俳優。／**adjust:** （何かに合わせて）～を調整する／**block:** 妨げる／**follow:** ついて行く／**serve:** ～のために尽くす、～に役立つ／**discover:** ～を知る、～に気付く／**diversity:** 多様性

[スペイン語アクセントの英語]

Penelope Cruz

ペネロペ・クルス

normallyやdirectorのrが発音されたり、characterやhaveの母音/æ/が/a/や/ʌ/気味に発音されているところや、全てではありませんがshe's、is、thingsなど語末の/z/が無声音の/s/の方で発音されているところにスペイン語からの影響が見られます。

③5 映画『355』インタビュー

As an action movie driven by female characters, is *The 355* exactly the kind of work the world needs now, after so much talk recently about women's roles in film?

女性の登場人物が引っ張っていくアクション映画として、

『355』はまさしく今世界が求めているタイプの作品ではないでしょうか。

近年、映画の中での女性のキャラクターについてはずいぶんと話題になっていますから。

Well, because it's actually one of the genres where, normally, you don't see the women being the lead in very, very cool, interesting characters. It's going to be great material. We have a great director, great, great writer. I really admire what Jessica is doing, because she's takin' action, you know. She's...is talking, you know, in...in very clever ways about everything that is going on but is also doing things that are going to contribute to a change.

そうですね、実際このジャンル（アクション）は、（『355』のように）女性がとても、とてもかっこよくて刺激的な人物として主役になることがなかなかない、（映画の）ジャンルの1つですからね。これはすごくいい題材になりそうですね。（この映画には）素晴らしい監督、さらにとても素晴らしい脚本家がいるんです。私は（監督の）ジェシカ（・チャステイン）がしていることを、とても尊敬しています。だって彼女は行動を起こしているから。彼女はとても聡明な話し方で、今起こっているいろいろなことを話しているんですが、同時に（女性の役割や女性に対する認識の）変化に寄与するようなことを実際にやっているんですよ。

driven by: ～主導の／**female:** 女性の／**character:** 役、登場人物／**exactly:** まさしく、ちょうど／**work:**（芸術などの）作品／**recently:** 近頃／**role:**（映画などの）役、役柄／**actually:** 実は／**genre:** ジャンル／**normally:** 従来は、いつもは／**lead:** 主役、主演俳優／**cool:** かっこいい／**material:**（本や映画などの）題材／**director:**（映画などの）監督／**writer:** 作家、ライター ▶ここでは脚本家のこと。／**admire:** ～を立派だと思う、尊敬する／**Jessica:** ▶Jessica Chastain. 米国の俳優で本作『355』の監督を務めている。／**take action:** 行動をとる／**clever:** 巧みな、賢い／**go on:** 起こる、生じる、行われる／**contribute to:** ～に寄与する、貢献する、役立つ

2022年8月号

アン・ハサウェイ、エディ・レッドメインなどインタビュー音声付

世界の英語で耳トレ Part1
も要チェック!

米・英・
豪・NZ編

